

宝生会 月並能

平成三十年五月十三日(日)
午後二時始

演目の解説

能「弱法師」(よろぼし)

高安通俊は、我が子を讒言で失い、四天王寺で修行を行っていました。一方捨てられた子、俊徳は盲目となり、「弱法師」と綽名されて四天王寺を彷徨い、通俊から修行を受け、会話を交わします。通俊は我が子と気づきませんが、人目のあるうちはさすがに名乗りにくいと考えて、日想観を拝み、夜になり人込みに一人取り残された我が子に寄り添い父と明かします。驚いた弱法師が逃げようとするのを宥め、共に故郷に帰って行きます。

狂言「鐘の音」(かねのね)

成長した息子の差し初めに黄金の飾りをつけた刀を作りたいと考える主人は、太郎冠者に鎌倉へ行つて「付け金の値(つけがねのね)」を聞いて来いと言いつけます。しかし「鎌倉」と聞いて「つき鐘の音(つきかねのね)」だと思い込んでしまった太郎冠者。それが差し初めと何の関係があるのだらうと不思議に思いながらも、主人の為にあちらこちらの寺を一生懸命に「つき鐘の音」を聞いて回ります。五大堂・寿福寺・極楽寺・建長寺の様々な鐘の音を聴き比べて下さい。

能「六浦」(むつら)

都の僧が東国行脚の途中、六浦の称名寺に立ち寄ります。折しも見事に紅葉する木々を見て、都にもこれ程の紅葉は無かろうと感心しますが、中に一本だけ紅葉してない木を見つけ不審に思います。そこへ女が現れ、その訳を語ります。昔、冷泉為相卿という方がこの寺に立ち寄ったとき、たつた一本だけ紅葉していた木に和歌を手向け、その徳により以後紅葉する事がなくなつたという。実は女はその楓の精で、夜になり月光の中に再び現れて、舞を舞います。

14:00

弱法師

シテ 小林与志郎

ワキ 福王 和幸

間 山本 則秀

大鼓 國川 純
小鼓 幸 清次郎

笛 内潟 慶三

後見

宝生 和英
東川 光夫

地謡

小林 晋也
小倉伸二郎
大友 順
山内 崇生

佐野 由於
三川 淳雄
大坪喜美雄
辰巳満次郎

15:10

鐘の音

山本 則俊

山本 則重
若松 隆

15:55

六浦

シテ 當山 孝道

ワキ 殿田 謙吉

間 山本泰太郎

大鼓 亀井 実
小鼓 観世新九郎

太鼓 徳田 宗久
笛 一噌 幸弘

後見

中村孝太郎
今井 泰行

地謡

和久莊太郎
水上 優
小倉健太郎
野月 聡

金井 雄資
前田 晴啓
武田 孝史
高橋 亘

終演予定 午後五時十五分頃

◎会場 宝生能楽堂

◎入場料

S席正面 / 8,000円 A席正面 / 7,000円

B席脇正面 / 6,000円 C席中正面 / 5,000円

D席自由席 / 3,000円

学生割引 全席種1,000割引 ※30歳未満の学生の方

◎チケットお申込先

宝生能楽堂 03-3811-4843 10時~17時(月曜休館)

<http://www.hosho.or.jp>

カンフェティ 0120-240-540 平日10~18時

<http://confetti-web.com>

部	柏	次回予告
鞆	崎	
大坪喜美雄	金森 秀祥	

平成三十年六月十日(日)
午後二時始